

令和4年度事業計画 (令和4年4月1日～令和5年3月31日)

◆事業計画の目的

本会は、定款の目的、第3条の「この法人は、我が国におけるバドミントン界を統括し、代表する団体として、バドミントンの普及発展を図り、もって国民の心身の健全な発達に寄与することを目的とする。」に沿って事業計画を実施します。

バドミントン競技を愛好する多くの人たちに普及振興、競技力向上の機会を提供し、選手のみならず役員等支援する人など各種競技会への参加、組織作りを通じて広くバドミントン競技の普及を図り、会員拡大を推進する。昨年もコロナ禍の中、BWF主催の国際大会が延期または、中止、国内においても第1種大会が多く中止となり、会員登録数の回復については徐々に回復してきていますが未だ回復途上にあります。今年度は、更なる日本バドミントン協会健全運営の骨幹となる会員数拡大に向け、先ずは3年前の30万人への回復を目指し、更なる会員拡大基調を構築する為に鋭意努力していく所存です。

また、東京2020オリンピックでは、残念ながら混合複の渡辺・東野ペアの銅メダル獲得のみに終わりましたが、2024年パリに向かって、若い日本代表選手達も育っており、更なる選手強化と組織強化を図って行く所存です。

本年度は、本会創立75周年記念事業を中心にマーケティングとS/Jリーグ改革にも引き続き取り組みます。加えて、8月開催の史上初の世界選手権大会成功(東京都)に向けても全力で取り組みます。

1 バドミントンの普及及び指導

(1) 第31回全国小学生バドミントン選手権大会

スポーツ振興及び普及はもとよりスポーツを通じた健全育成を目的とした大会で、令和4年12月23日から12月27日まで、石川県金沢市で開催。選手約980名、競技役員延960名。

(2) 第23回ダイハツ全国小学生ABCバドミントン大会

早期よりバドミントンに興味を持たせ、選手の発掘、健全育成、競技力の向上と振興を目的とした大会で、令和4年8月12日から8月14日まで、熊本県八代市で開催。選手約330名、競技役員延850名。

(3) 第38回若葉カップ全国小学生バドミントン大会

全国の小学生にバドミントン競技への機会を広く提供し、競技を通じて相互の交流を深めると共に、体力の向上、健全で豊かなスポーツの育成を目的とした大会で、令和4年7月29日から8月1日まで、京都府長岡京市で開催。選手約880名、競技役員延920名。

(4) 第52回全国中学校バドミントン大会

中学生に正しい技術の習得を図り、心身の健全な育成を目的とした大会で、令和4年8月19日から8月22日まで、青森県弘前市で開催。各地区男女各24校、選手約430名、競技役員延780名。

(5) 第23回全日本中学生バドミントン選手権大会

中学生の健全育成に寄与することを目的とした大会で、令和5年3月24日から3月26日まで、長野県長野市で開催。選手約450名、競技役員延840名。

(6) 第51回全国高等学校選抜バドミントン大会

高校生の交流と技術指導を目的とした大会で、令和5年3月24日から3月28日まで、岩手県花巻市で開催。9地区で選抜大会を実施し、各地区代表男女67校、選手840名、競技役員延1,000名。

(7) 第40回全日本レディースバドミントン選手権大会

バドミントンの普及と競技力の向上、また、参加者を通じての啓発を目的とした大会で、令和4年7月21日から7月24日まで、北海道札幌市で開催。選手約800名、競技役員延680名。

(8) 第17回全日本レディースバドミントン競技大会（個人戦）

バドミントンの一層の普及・発展を目的とした大会で、令和4年12月9日から12月11日まで、山梨県甲府市で開催。選手約1,100名、競技役員延960名。

(9) 用器具検査並びに認定

競技用具を調査、研究及び検査し、規格に合格した用器具を認定して、愛好者の使用の便を図る。今年度より検定審査会を年3回に増やし、愛好者のニーズに対応する。

(10) 競技規則書及びルール教本発行

競技規則並びに諸規程の周知徹底と各都道府県協会または8連盟が審判講習会・審判員資格検定会等の実施に対して使用される「2022-2023 BADMINTON 競技規則（諸規定集）」を本年度は、発行する。並びに3級・準3級公認審判員資格検定会でルールを分かり易く周知徹底させるための「ルール教本（2022年版3級・準3級公認審判員資格検定会ルール教本「緑本」）」を本年度は、発行する。これにより常に新しい競技規則等の正確な資料を提供し、正しいルールに基づく円滑な試合運営の実施と公認審判員有資格者の増員と資質の向上に資するものとする。

(11) 指導教本発行

令和元年度から実施された新たな公認スポーツ指導者養成制度（公益財団法人日本スポーツ協会・公益財団法人日本バドミントン協会）及び、本会「公認スポーツ指導者資格規程」、カリキュラムなどの改訂に伴い、新養成制度の構築と実施に向けて、コーチ3、コーチ4の養成講習会用公式テキストを編集、作成する。公認スポーツ指導者養成のための教本を提供する。

(12) 広報活動

都道府県協会との一体化した広報活動と、インターネットを利用した情報提供の

内容を充実する。また、情報ネットワーク及びマスメディアなどにより、愛好者の拡大を図るとともに、PR啓発活動を進める。

(13) 学連助成

全日本学生バドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(14) 高体連助成

全国高等学校体育連盟バドミントン専門部の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(15) 中体連助成

日本中学校体育連盟バドミントン専門部の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(16) 小学生連盟助成

日本小学生バドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(17) 教職員連盟助成

日本教職員バドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(18) レディース連盟助成

日本レディースバドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(19) 実業団連盟助成

日本実業団バドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(20) 社会人クラブ連盟助成

日本社会人クラブバドミントン連盟の活動に対して助成し、同連盟のより活発な活動を図る。

(21) 小・中・高一貫指導

「世界で戦える競技者」育成のため、各都道府県協会に小・中・高一貫の指導体制の構築を推進し、ジュニアの育成・強化を実施する。

(22) バドミントン・アーカイブの収集・整理・公開

本会の歴史やバドミントン競技の歴史を残すことにより、本会の存在意義、バドミンントンの価値を多くの人々と共有し、バドミンントンの発展に寄与する。このため、バドミンントンの歴史資料、書籍、大会の記録、プレーヤーの映像、各都道府県協会の資料などを収集、整理し、バドミンントンの記憶として残し、大会会場などで多くの人に公開する。

(23) バドミントン・レガシーの創出と継承

我が国のバドミンントンの持続的発展を可能にする多様なバドミンントン活動を、バ

ドミントン・レガシーとして創出し、整備し、継承していく。2020年東京オリンピック・パラリンピック開催を契機に、バドミントンに関連する青少年の教育や様々な人材育成に力を入れ、将来のバドミントン伝道師役となるであろう、青年を海外に派遣するなど様々な活動を行い、バドミントンを育て、発展させた理念・文化を直接体験し、その体験を多くの人と共有し、我が国のバドミントン文化の発展に寄与する。

(24) バドミントンフェスタ2022

ファン感謝祭を実施し、バドミントンファンへ日頃の応援の感謝の意を伝えるとともに、バドミントンの普及発展に寄与する。

(25) バドミントンファンクラブ

日本バドミントン界の普及・発展及びバドミントンファン拡大を目的とし、新たなファンを獲得することでメジャー化を図る。

(26) バドミントンフォーラム

日本バドミントン界を取り巻く状況について、加盟団体と意思疎通を図り、本会と加盟団体との協力関係、連携の益々の強化を図る。

(27) 協会創立75周年記念事業

令和3年(2021年)11月2日に本会の創立75周年を迎えた。この大切な節目を皆で振り返り、心に刻むため、令和4年12月開催の総合選手権大会までの間を啓発期間とし、対象事業において、参加記念品や啓発チラシの配付、啓発パネルの展示を行う。また、動画を含んだ記念誌の作成など様々な記念事業を実施する。

(28) 新型コロナウイルス感染症拡大防止事業

新型コロナウイルス感染拡大防止対策として本会が策定した「新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン活動ガイドライン」及び「新型コロナウイルス感染症対策に伴うバドミントン活動ガイドライン3章バドミントン競技大会・イベント実施にあたって」に沿って、都道府県協会が第1種大会等を運営できるように助成する。また、このことを通じて都道府県協会の安定運営に向けた支援を行う。

2 バドミントンに関する公認審判員及び公認指導者の養成と資格の認定

(1) 公認レフェリー有資格者の第1種大会への派遣と資質の向上

公認A級・B級レフェリー有資格者を本年度実施予定の全ての第1種年次大会(25大会)及び国際親善レディースバドミントン大会に、レフェリー及びデピュティレフェリーとして派遣し、大会の運営全般の統一性と公正化を図る。

さらに平成26年度に創設された国内レフェリー認定委員制度(兼国内レフェリーインストラクター制度)を活用し、公認A級レフェリーの養成を図るとともに、公認B級レフェリーの資質の向上と養成を図る。

(2) 公認A級レフェリー資格検定会開催

公認レフェリー制度に基づき、公認A級レフェリーの増強と公認B級レフェリー

の定数（全都道府県各1名、9地区各1名、8連盟各1名）の維持を図るために、公認A級レフェリー資格検定会を実施する。

(3) 公認レフェリー研修会

本会第1種大会における競技規則の統一と大会の公正さを図り、大会全般にわたる運営及び審判団の指導、管理を目的としておこなわれている公認レフェリー制度ではあるが、競技諸規程の改定が頻繁に行われている現況を鑑み、諸規程に対するルール解釈の統一と資質の向上を図るために研修会を実施する。

(4) 大会運営規程・公認審判員規程に関する実務担当者説明会

本会第1種大会における各種規程の統一を図り、新年度に向けて大会全般に亘る円滑な競技運営を図るために、加盟団体の担当者やS/Jリーグ参加チーム監督、ユニフォーム作成責任者、用器具メーカーを対象に、諸規程のルール解釈についての説明会を実施する。

(5) 資格審査認定委員資格更新講習会並びに資格審査認定委員検定会

公認審判員資格検定会を実施する場合のためにおこなわれている資格審査認定員のルール解釈と審判技術の統一を図ることを目的とし、令和5/6/7年度資格更新のための講習会を実施する。また、同時に資格審査認定委員検定会を実施する。

(6) 公認審判員資格認定登録

公認審判員資格登録規程による合格者を各級公認審判員に認定し、登録させ、各地で実施する大会において正義と公正に基づく円滑な競技会運営を図る。また、中高生を対象とした準3級公認審判員資格取得者についても、今後も更なる資格者の取得養成を進めていく。こうした正しい競技規則の習得や審判技術のマスターは、更なるバドミントン技術向上にも役立ち、また、各加盟団体が開催する数々の大会において円滑な大会運営に活用されることに寄与する。

(7) 国際審判員・レフェリー資格取得試験受講者の養成と国際審判員・レフェリー資格既得者の研修及び活動

国際審判員資格者養成規程に基づき Badminton Asia 国際審判員受講有資格者を対象とした国際審判員養成セミナー（講習会）を年に一度ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン（ワールドツアースーパー750）開催時に併せて開催し、国際審判員資格取得受講者の養成を図る。また、国際審判員・国際レフェリーインストラクター制度を活用し、国際審判員・国際レフェリーの資質の向上を図る。

(8) 国際審判員、国際線審の派遣、受入および国際審判員相互派遣事業（イクスチェンジプログラム）の推進、国際審判員の国内開催国際大会への派遣

バドミントン界における国際貢献に寄与するとともに国際審判員並びに国内審判員の資質・技術向上及び、競技運営の改善を図るために、マレーシア、シンポール、香港、中国、韓国、フランスの6か国との間で実施されている国際審判員相互派遣事業（イクスチェンジプログラム）を推進するとともに、世界バドミントン連盟（BWF）、Badminton Asia からの国際審判員、国際線審の派遣・受入要請に協力をする。

(9) 公認スポーツ指導者養成講習会

公益財団法人日本スポーツ協会と共催して、コーチ4、コーチ3、コーチ2、コー

チ1の養成講習会を開催し、全国各地で活動している指導者に受講を促し、基本的、専門的スポーツ技術の指導と教育を行い、公認指導者資格の取得を推進する。

(10) 公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会

各都道府県で開催する公認スポーツ指導者養成講習会で講師を務める者を育成・認定するための公認スポーツ指導者講師競技別全国研修会を開催する。

(11) 公認スポーツ指導者の資格更新

公益財団法人日本スポーツ協会と共催事業である「公認スポーツ指導者育成事業」の各級養成講習会の合格者を、公益財団法人日本スポーツ協会の「公認スポーツ指導者制度」に登録し、公認スポーツ指導者資格更新のための研修会（更新研修：4年間に一回受けなければならない）を開催し、資質の向上及び指導体制の充実を図る。

(12) 全国巡回バドミントン講習会

国内のバドミントンの持続的発展を図るために、平成30年度から5年間で全国47都道府県を巡回し、バドミントンの普及、指導者育成、地域の指導者の連携・指導の向上を、開催地とともに協力して行う。

3 公益財団法人日本スポーツ協会、世界バドミントン連盟(BWF)及びBadminton Asiaへの加盟と国際貢献

(1) 公益財団法人日本スポーツ協会等への代表者派遣

公益財団法人日本スポーツ協会、公益財団法人日本オリンピック委員会(JOC)への代表者を派遣するとともにその事業に対し、協調、展開し、本競技の発展を図る。

(2) 世界バドミントン連盟(BWF)総会等への代表者の派遣

年次総会(5月7日にバンコック(タイ)で予定)に代表者を派遣し、国際スポーツの振興や本競技の発展を図る。新型コロナウイルス感染症の状況によりバーチャル会議にて開催の可能性もある。

(3) Badminton Asia 総会への代表者の派遣

年次総会に代表者を派遣し、アジアスポーツの振興のため協調し、本競技の発展を図る。特にBadminton Asiaの事業活動と加盟国全ての普及発展に貢献する。新型コロナウイルス感染症の状況によりバーチャル会議にて開催の可能性もある。

(4) 国際貢献

本会の現状を鑑みると世界のバドミントン界に対する国際貢献が必須と言える状況である。バドミントン発展途上国に競技力向上支援事業(コーチ派遣・海外指導合宿実施・国内受入等)の拡充と物品支援(中古ラケット、シャトル、ウェア、シューズ等)を行い、本会が国際貢献を通じて世界のバドミントン界の普及発展に寄与する。

4. バドミントンに関する国内競技会の開催

- (1) 第15回全国社会人クラブバドミントン選手権大会（個人戦）
令和4年6月17日から6月19日まで富山県高岡市で開催。選手約900名、競技役員延500名。
- (2) 第72回全日本実業団バドミントン選手権大会
令和4年6月15日から6月19日まで大阪府大阪市で開催。選手約1,600名、競技役員延980名。
- (3) 第73回全国高等学校バドミントン選手権大会
令和4年7月23日から7月28日まで徳島県吉野川市他で開催。選手約1,000名、競技役員延970名。
- (4) 第61回全日本教職員バドミントン選手権大会
令和4年8月12日から8月16日まで愛媛県松山市で開催。選手約780名、競技役員延830名。
- (5) 第24回全国高等学校定時制通信制体育大会バドミントン大会
令和4年8月16日から8月19日まで神奈川県小田原市で開催。選手約500名、競技役員延330名。
- (6) 第10回全日本学生バドミントンミックスダブルス選手権大会
令和4年8月13日から8月14日まで愛知県名古屋市で開催。選手約200名、競技役員延150名。
- (7) 第46回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会
令和4年9月3日から9月4日まで香川県丸亀市で開催。選手約240名、競技役員延430名。
- (8) 第65回全日本社会人バドミントン選手権大会
令和4年9月2日から9月7日まで愛知県一宮市で開催。選手約1,000名、競技役員延990名。
- (9) 日本スポーツマスターズ2022バドミントン競技会
公益財団法人日本スポーツ協会等との共催事業で、令和4年9月23日から9月25日まで岩手県北上市で開催。選手約480名、競技役員延780名。
- (10) 第41回全日本ジュニアバドミントン選手権大会
令和4年9月16日から9月19日まで福岡県北九州市で開催。選手約860名、競技役員延880名。

- (11) 第77回国民体育大会バドミントン競技会
公益財団法人日本スポーツ協会等との共催事業で、令和4年10月7日から10月10日まで栃木県大田原市で開催。監督・選手約444名、競技役員延680名。
- (12) 第73回全日本学生バドミントン選手権大会
令和4年10月14日から10月20日まで山梨県甲府市で開催。選手約990名、競技役員延1,200名。
- (13) バドミントンS/Jリーグ2022
令和4年11月5日から令和5年2月12日までの間、全国各地で開催。選手約200名、競技役員延1,300名。なお、表彰式は、2月12日の予定。
- (14) バドミントンS/JリーグⅡ2022
令和4年11月17日から11月20日まで北海道苫小牧市で開催。選手約160名、競技役員延500名。
- (15) 第39回全日本シニアバドミントン選手権大会
令和4年11月18日から11月21日まで香川県・高知県・愛媛県の3県で開催。選手約3,400名、競技役員延1,140名。
- (16) 第76回全日本総合バドミントン選手権大会
令和4年12月24日から12月30日まで東京都調布市で開催。選手約350名、競技役員延980名。
- (17) 第23回全国社会人クラブ対抗バドミントン選手権大会
令和5年2月17日から2月19日まで京都府向日市他で開催。選手約700名、競技役員延200名。

5 バドミントンに関する国内の国際競技会

- (1) ヨネックス大阪インターナショナルチャレンジ2022
令和4年4月6日から4月10日まで大阪府堺市で開催。
- (2) ヨネックス秋田マスタース2022 (ワールドツアースーパー 100)
令和4年7月26日から7月31日まで秋田県秋田市で開催。
- (3) 日韓ナショナル交流競技会
令和4年8月15日から8月17日まで富山県高岡市で開催。
- (4) 第27回世界選手権大会2022
令和4年8月21日から8月28日まで東京都渋谷区で開催。

- (5) ダイハツ・ヨネックスジャパンオープン2022 (ワールドツアースーパー 750)
令和4年8月29日から9月4日まで大阪府大阪市で開催。
- (6) ヨネックス杯国際親善レディースバドミントン大会2022
令和4年10月19日から10月23日まで大阪府大阪市で開催。
- (7) 日韓中ジュニア交流競技会
＜未定＞
- (8) 日韓高校生交流競技会
＜未定＞

6. バドミントンに関する国際大会への代表者の選考及び派遣

- (1) トマス杯・ユーバー杯
令和4年5月8日から5月15日までタイ・バンコク市で開催。
- (2) スティルマン杯
アジア地区予選会が令和5年2月に開催（日程、開催地は未定）
- (3) 世界選手権大会
令和4年8月21日から8月28日まで東京都渋谷区で開催。
- (4) 世界ジュニア選手権大会
令和4年10月17日から10月30日までスペイン・ウエルバ市で開催。

7. バドミントンの競技力の向上

- (1) スポーツ医科学研究
公益財団法人日本スポーツ協会、独立行政法人日本スポーツ振興センター及び本会強化本部の各部と連携し、バドミントン競技の特性を研究しながら、トレーニング技術や目標を達成するためのメカニズムを明確にしていくとともに、スポーツ医科学のサポートスタッフの養成を促進し、併せて資質とレベルの向上を図り、競技力向上と強化体制を整える。
- (2) アンチ・ドーピング対策
公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構（JADA）との協力により「日本ドーピング防止規程」によりドーピング検査を実施し、アンチ・ドーピング対策を実施する。また、ナショナル代表、ジュニア代表選手へのアンチ・ドーピング広報活動を積極的に進める。
- (3) 選手強化
全日本総合選手権大会の成績を中心に各種大会や日本ランキング等を参考に20

24年パリオリンピック対策プロジェクトと位置づけ、ナショナルチームA代表・B代表を男女別に日本代表選手として編成し、国内合宿・海外遠征等により強化を図り、オリンピックでのメダル獲得を目指す。また、競技者育成の一貫指導システムを中心としてジュニア選手の競技力向上を図るために、カテゴリーをU-19(高校生)・U-16(中学生)・U-13(小学生)に分けて強化を実施する。オリンピック、世界選手権大会等に備え有望新人を発掘の上、国内外合宿において育成強化を図り、国際大会(世界ジュニア)等に派遣、メダル獲得を目指す。

8. 組織運営

(1) ガバナンスコードの推進

スポーツ庁において策定された「スポーツ・インテグリティの確保に向けたアクションプラン」において、スポーツ基本法第5条第2項に規定する、スポーツ団体における自ら遵守すべき基準の作成等に資するよう、適切な組織運営を行う上での原則・規範として、スポーツ団体ガバナンスコードが策定された。本会は、ガバナンスコードの遵守状況について、具体的かつ合理的な自己説明を行い、これを公表する。

本年度は、倫理委員会の倫理・コンプライアンス委員会への発展など司法機関組織の見直しやアスリート委員会の設置等に取り組む。

(2) マーケティング及び、バドミントンS/Jリーグの改革

中・長期的視野に立った本会の永続的な健全発展を目標に、世界トップレベルの代表選手を擁するまでになったステージをチャンスと捉え、今、マーケティング施策をメインにバドミントンS/Jリーグ改革も同時に進め、日本バドミントン界を国民から広く支持される真のスポーツとして成長・発展を目指す。次なる世代人材育成に務め、健全な財政基盤を強固なものに構築することが必須であり最重要課題として取り組む。